

今回は「キキョウ」の特集です。

多くの歌人や俳人に愛でられてきた植物で、今や、いろいろな園芸品種が出回る一方、野生の花を見る機会はほとんどなくなってしまいました...

環境省のレッドリストでは「**絶滅危惧 類**」に位置づけられ、都道府県のレッドデータブックでは、何と**44** 都道府県で掲載されているという、**超希少種**となってしまったのです...
でも...

南河内の山々を探したところ...

生育していました！！

野生のキキョウの姿を、別添の写真でご堪能ください。 (具体的な撮影場所は伏せておきます...)

万葉集の中で「秋の七草」と歌われている「**朝貌の花**」は本種のことだと言われています。「つぼみ」を見ると、花びら同士が風船のようにぴったりとくっついています。そのため英名では "balloon flower" というのです。

つぼみが徐々に緑から青紫にかわり、6～9月頃に星型の花を咲かせます。雌雄同花なのですが「**雄性先熟**」で、

「**雄花期**」 ... 雄しべから花粉が出ているのですが、雌しべの柱頭は閉じたままの状態、

「**雌花期**」 ... 雄しべが花粉を出し終わった後、雌しべの柱頭が開いて他の花の花粉を待ち受ける状態、

という“時間差”を設けることで、自家受粉を避ける仕組みができています。

写真 : 満開の株

写真 : つぼみ (“紙風船”のようなつぼみが青紫色に色づき、裂け目ができはじめました)

写真 ・ 雄花期 (5本の雄しべが、中央の雌しべに寄り添うような形で花粉を飛散させています)

写真 ・ 雄花期の終焉 (花粉を出し終えた雄しべは、倒れて朽ちていきます...)

写真 : 雌花期の始まり (よく見ると、雌しべの先に線が見えてきました。)

写真 : 雌花期 (雌しべの先が開き始めました。)

写真 : 雌花期の全盛 (雌しべの先が開き、他の花からの花粉を待ち受けている状態です。)

このように、キキョウの花は自家受粉を防いで、少しでも良い子孫を残そうとしているのですね。

写真 : 花びらが...

「クロウリハムシ」が花びらをかじっています。
花粉を媒介してくれる虫なら歓迎なのですが...



















